

平成18年度 第3回 槻の木高等学校 学校協議会（協議内容報告）

1. 日 時 平成19年 3月10日（土）午後4時～午後6時
2. 場 所 槻の木高等学校 会議室
3. 参加者 芝井さん、田鎖さん、米津さん、壺谷さん、加治佐さん、吹田さん、
斉藤さん、中島さん
校長、教頭、事務長、山本、秋元、吉田彩、日垣（記録）
4. 内容

【学校長挨拶】

校長： 本日はお忙しい中おいでくださりましてありがとうございます。

3月3日に無事、卒業式を終え、喜ばしいことに、大阪大学2名、うち1名現役合格、国公立大の合格者は現在11名となりました。また関大の合格者は昨年の5～6倍となりました。詳しい合格者数については、これから集計を行います。

昨年は、生徒の進路目標がバリエーションに富んでいましたが、今年は進学の方
向に向いてきたと思います。これからは、槻の木高校への入り口を中3生だけでな
く、中学1・2年生にも対象を広げて説明会を行っていきます。また本校を発展さ
せていくために教職員の協力体制をさらに強固にしていきたいと考えています。

本年度入試においては、2.09倍という倍率であり、不合格となった生徒のため
にも、合格した生徒に丁寧な指導をしていきたいと考えています。

本日は様々な提言を頂いて学校の運営に役立てていきたいと思っていますので、
忌憚のないご意見をよろしくお願ひいたします。また、府教委の教育振興グループ
から、中島様にも参加して頂いております。

中島：本日は、学校教育自己診断結果の内容について学ばせてもらいに来ました。よろし
くお願ひします。

【プリントによる学校教育自己診断の説明】

山本：

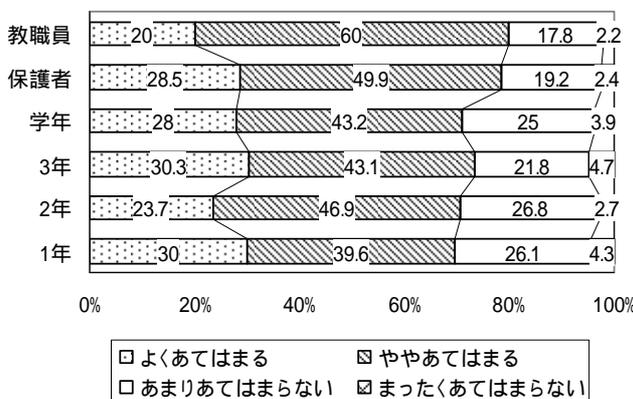
4年目にして初めて行った大規模な学校教育自己診断ですが、本日は、色々と提言
を頂きたいと思います。回収数については、生徒94%、保護者59%と信頼でき

る数になっており、生徒・保護者・教職員の意識のずれが見られるので、それを中心に見ていきます。

- ・ 注目すべき数字として、

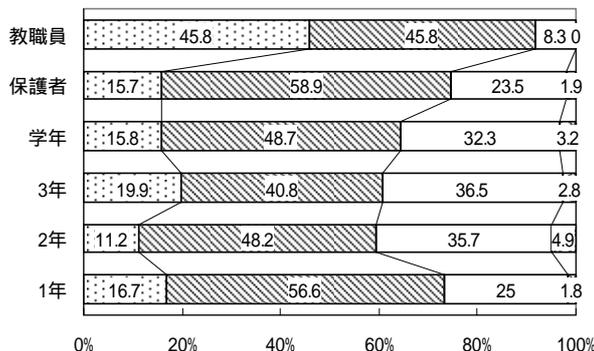
「高校生活に自分なりの目標を持っている」という質問項目に対しての肯定的な回答の割合が、教職員が思っているより少ないこと、「槻の木高校に入学してよかった」という回答に否定的な回答の割合が多いことがあります。本校は色々なところにきちっと指導していますが、3年生になって目標を持ち始めたときに肯定的な数値が上がっていることが分かります。

高校生活に自分なりの目標を持っている



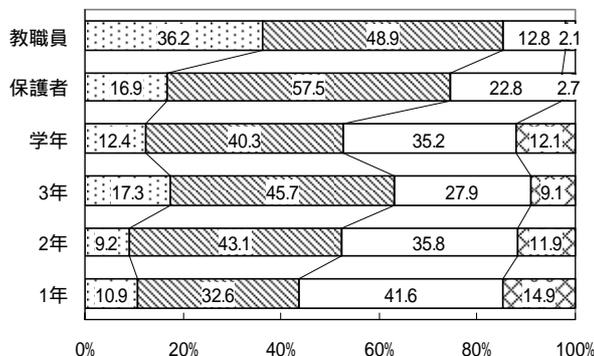
- ・ 授業についてもずれがあり、生徒がわかりにくいと感じていても、教員がわかりやすい授業をしていると思込んでいるところがあるように見えます。

教え方に工夫をしている先生が多い

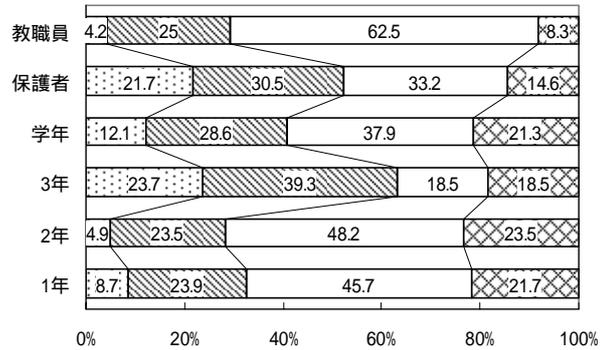


- ・ 生徒と保護者についてもずれがあり、「悩みや相談に親身になって応じてくれる」という項目については、先生にどこまで相談するかという線引きが、生徒と保護者で異なることが考えられます。

悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い



家庭学習など自学自習の習慣が身についてきた



- 生徒の家庭学習については、保護者が「やっている」を回答した割合が多いのに対して、教員は否定的でした。教員の考えを改めるべきなのかも知れません。

- 「高校生活に自分なりの目標を持っている」という項目に肯定的な回答をした生徒と否定的な回答をした生徒を分けて、「槻の木高校に入学してよかった」の回答を調べてみたところ、目標を持っている生徒の75%が入学してよかったと回答しているのに対して、否定的な生徒の回答は33%と大きく違いが見られた点から、高校生活の目標と、学習に対する姿勢の相関関係が強いということが確認でき、いかに目標を持つことが大切であるかがわかります。

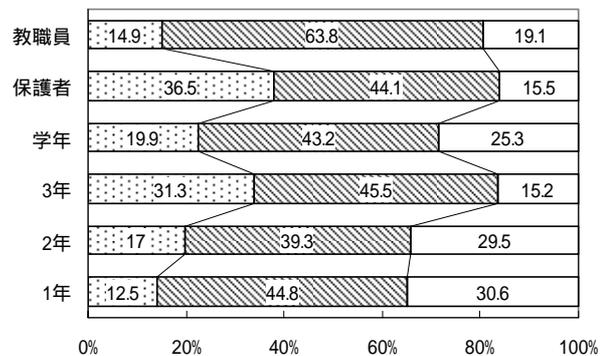
「高校生活に自分なりの目標を持っている」について

A群: 肯定的な群(よくあてはまる + ややあてはまる) - 473人(71%)

B群: 否定的な群(あまりあてはまらない + まったくあてはまらない) - 192人(29%)

	A群(%)	B群(%)	A群 - B群
槻の木高校に入学してよかったと思う	75.1	33.7	41.4
勉強には真剣に取り組んでいる	68	28.3	39.7
高校卒業後の進路の希望を具体的に考えている	83.4	44.1	39.3
部活動や勉強など、生徒のがんばりを評価してくれる	80.3	47.7	32.6
食事の内容や睡眠時間など生活習慣には十分気をつけている	64.5	34.2	30.3
悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い	61.4	31.4	30
家庭学習など自学自習の習慣が身についてきた	49.1	20.6	28.5
先生は、お互いに協力し合っている	69.7	44.8	24.9
クラス活動には積極的に参加している	71.1	46.6	24.5

槻の木高校に入学してよかったと思う



- 「槻の木高校に入学してよかった」に肯定的な回答をしている生徒は、先生との信頼関係によるものであることもわかり、改めて大切さが分かります。

- 面白い結果が出たものとして、「携帯電話の使用時間」があります。1日の携帯電話の使用時間が2時間以上の生徒が47%もあり、時間をもて余していることがわかり、勉強の習慣と携帯電話の使用時間の相関が非常に大きく出ています。

「勉強には真剣に取り組んでいる」について

A群:肯定的な群(よくあてはまる+ややあてはまる) - 373人(56%)

B群:否定的な群(あまりあてはまらない+まったくあてはまらない) - 289人(44%)

	A群(%)	B群(%)	A群 - B群
家庭学習など自学自習の習慣が身についてきた	63.7	11.9	51.8
槻の木高校に入学してよかったと思う	78.3	43.9	34.4
高校生活に自分なりの目標を持っている	85.5	52.9	32.6
学校生活についての先生の指導は納得できる	62.6	33.7	28.9
先生方に積極的に質問している	37.7	10.2	27.5
部活動や勉強など、生徒のがんばりを評価してくれる	82.9	55.6	27.3
食事の内容や睡眠時間など生活習慣には十分気をつけている	67.2	41.2	26

携帯電話の使用時間(%)	30分以内	1時間程度	2時間程度	2時間以上
A群の生徒(全学年)	50%	25%	11%	15%
B群の生徒(全学年)	25%	27%	14%	33%

- 部活動に非常に熱心に取り組んでいると回答した211名の生徒と、それ以外に回答した生徒245名について、部活動と勉強等について回答を分けてみたところ、生活・時間についてのリズム感や規律に違いがあり、でも平均学習時間が変わらないことから、部活動が勉強時間に及ぼす影響はないように思われ、部活動をしているからこそ、時間の使い方が上手になるように思います。

1・2年生で「部活動に積極的に取り組んでいる」について

A群:肯定的な群(よくあてはまる+ややあてはまる) - 211人(46%)

B群:否定的な群(あまりあてはまらない+まったくあてはまらない) - 245人(53%)

	A群(%)	B群(%)	A群 - B群
食事の内容や睡眠時間など生活習慣には十分気をつけている	67	40.6	26.4
高校生活に自分なりの目標を持っている	83.2	58.8	24.4
部活動や勉強など、生徒のがんばりを評価してくれる	81	57.9	23.1
クラス活動には積極的に参加している	77.6	54.7	22.9

平日の学習時間の比較

	A群(211人)				B群(245人)			
	30分未満	1時間	2時間	3時間以上	30分未満	1時間	2時間	3時間以上
1年	63人(53%)	39(33%)	11(9%)	5(4%)	64(58%)	32(29%)	11(10%)	3(3%)
2年	45(48%)	36(38%)	10(11%)	2(2%)	69(52%)	38(29%)	11(8%)	14(11%)
3年	108(51%)	75(36%)	21(10%)	7(3%)	133(55%)	70(29%)	22(9%)	17(7%)

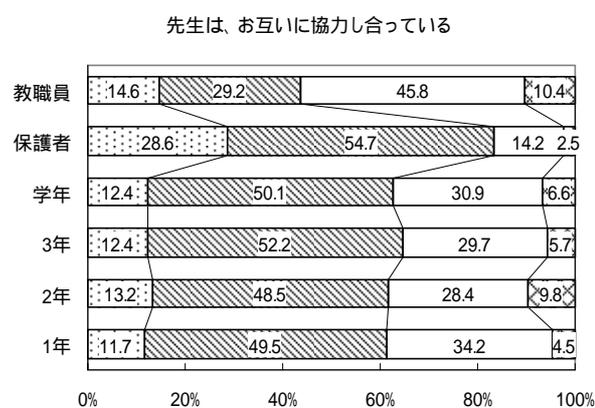
分析について誤っている点があるかもしれませんが、忌憚のないご意見を頂きたいと思えます。またアンケート回答の最後に設置している自由記述欄の回答も参考にしたいと思えます。

【質疑応答】

芝井： このアンケート結果はどこまで返すつもりでいるのかプロセスを教えてください。携帯の結果等は保護者にとって良いメッセージになると思う。

山本： 基本的には公開したいと思えます。PTA総会や進路説明会等を利用すれば若干の説明と共に返せると思っています。

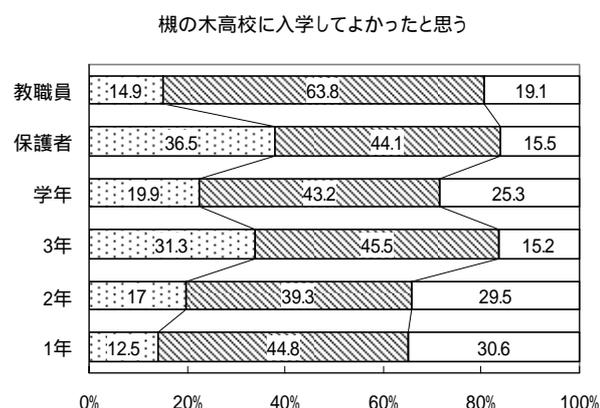
芝井： 「教職員が協力しあっている」という項目で、生徒や保護者が肯定的な割合が多いのに対して、先生に否定的な割合が多いのはどのように考えるか。教員集団全体として、どう考えるのか意思の統一が必要ではないか。



山本： 他校との比較が大きいように思われます。本校では役割分担をはっきりとするので、ここまで仕事をさせられると感じる息苦しさがあるのではと思えます。

校長： 校務分掌は常に手を加えながらよりよいものを目指していきます。まだ十分にできなかったこともあるかと思えます。

芝井： 1/4の生徒が学校に入ったことに納得していないことについて、アプローチ方法として、2つ考えられる。1つは本人にこの槻の木にいる自分を自覚させるために個別指導でフォローする。もう1つは、連帯意識に重きを置いて、全体の士気を上げることで引っ張っていく。いずれか、または両方を利用したら良いと思う。



加治佐： 豊中は90%、ここは30%であり、3年になれば減っていくという現状。入試の倍率が2倍以上あるのにおかしいと思うがどう考えているか。こんなはずではなかったと考えているのか。

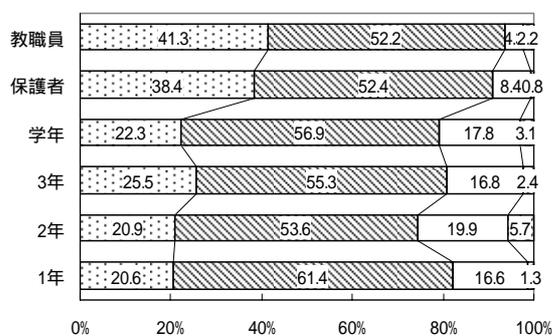
校長： 倍率は2倍以上あるが、入学する前に生徒指導が厳しい点等、本校を十分に理解せずに受験する生徒が多いことも挙げられると思います。

田鎖： 受験生の意識から考えて、年々、受験層に変化が起こっているように思う。例えば三島か春日丘に行きたいが前期に早く合格が欲しいと考えている点があるのではないか。受かったもの、三島や春日丘が良かったのではないかと考えているのではないか。しかし、2年や3年となるにしたがって、納得出来ている点が良いと思う。

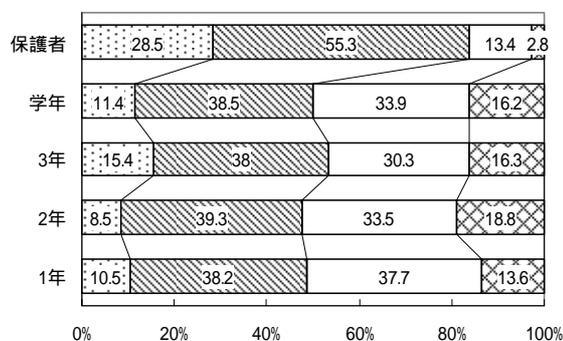
教頭： 3年生の希望者に対する進学アプローチは非常に大きいですが、1年、2年に対してもそのようなアプローチが必要なのではと考えています。

加治佐： 保護者の評価が高いのは成功で、学校の方針が良く伝わっていると思われる。

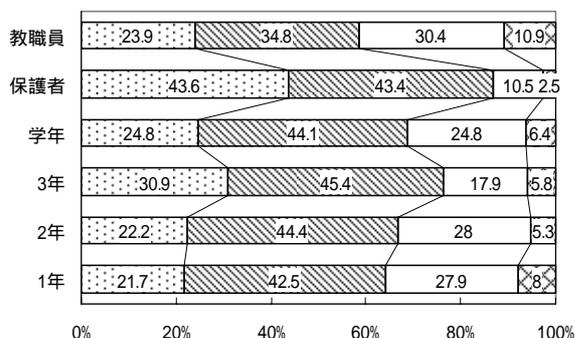
先生は、責任をもって、授業やその他の仕事に当たっている。



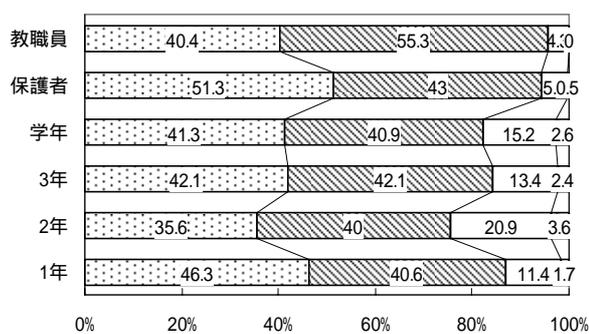
学校生活についての先生の指導は納得できる



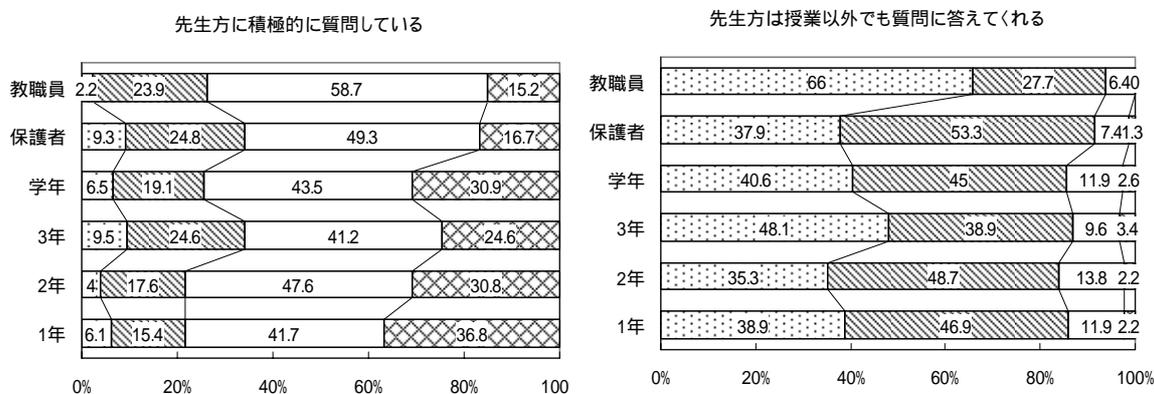
金曜・土曜講習は学力向上に役立つと思う



学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている



田鎖： わからないところを積極的に質問しているという項目に対する、生徒と教員の意識の違いはどう思っているか。



山本： 3年の内容を2年にやっているため、2年生にとっては教わっている内容が難しく感じ、1年は新課程が簡単なので、質問や授業の分かりやすさが数字に出ているのではないかと思います。

壺谷： アンケート結果がパッと見て分かりにくい。他の高校との比較があればもっと分かりやすいと思う。その比較結果が検討課題になるのでは。

加治佐： HPで公表する等、大阪府では推奨していないのか。

中島： 数字を公表するかどうかについては各学校によります。HPで数字を出している高校もあります。

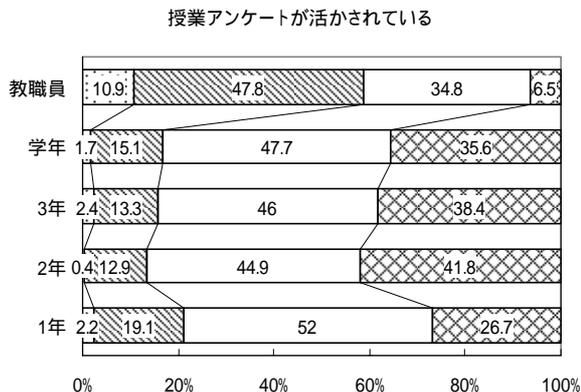
米津： 授業アンケートで高い数値を得て、保護者の学校に対する信頼も高い。個々の教員を見たときに授業で肯定的回答の数値が高い者もいるが、全体として低くなることもある。生徒一人ひとりの期待度に違いがあるので、結果の中身を検討することも考えるべきではと思う。

加治佐： 大切な2点として、1つは、新しい試みに取り組めば取り組むほど、欲求が深くなるので、ラインを決めないと教員は疲弊してしまう。2つ目は、保護者の評価が高いことだと思う。

芝井： 教員集団の中の補い合い、意見交換をどのように行うのが大切だと思う。大学でも教員は意見交換をやった後で、やってよかったという意見も出ている。

米津： 何かアンケート結果の中で、これだけは、という、いくつかのテーマを設けて、本音で検討できれば良いのではないか。

教頭： 「授業アンケートが活かされているか」という項目に対して、低い数字が出ている点について、次年度は学力保障委員会で積極的な検証と取り組み



を実施します。

校長： 生徒から直接、この先生がわかりにくいと言われることがあります。18年度は公開授業で数人の教員が授業を行ったが、公開している先生の授業はすばらしいと思う。19年度も積極的に公開授業を行いたいと思います。

田鎖： 京大セミナーでは研修を行い、先生の授業を全員で見るようにしている。若い先生は恥を知らないので、若い先生同士で行わせるようにすればいい。

加治佐： 大学院教育で重要な点は、各先生が各専門分野を生徒に提供するが、それが全体として、カリキュラムとして形になっている事である。最終目標に向かって授業を受けていくように授業が移行しつつある。これを成し遂げるためには、各担当がお互いに情報公開をしなければならない。高校でも強制力をもたせて各教科の情報公開をやっていけばよいのではないか。

校長： 授業を工夫していこうという雰囲気、みんなで指導しているという雰囲気が、生徒の学力向上や規律正しさにつながっている。

山本： 家庭学習強化月間を昨年10月に実施したが、検証についてはまだである。まだ習慣化されていないという感触はもっている。部活動との両立という点について、部活動終了後の時間の使い方を、モデルを示し、習慣化させたい。勉強合宿において、何人かの生徒の時間の使い方の中にも、モデルとして他の生徒へ示せるものがあった。勉強のスタイルのモデルを発信していく必要がある。

【各委員からの提言】

田鎖： 先生方の熱意を見せてもらった1年だった。そういう1年、2年からのプロジェクトがあっても良いのではないかと思う。

芝井： 関西大学では、高槻市駅前に小・中・高・大・院を作る予定だが、そこでは、目標を自己確認しながら進んでいく、ポートフォリオの大切さを生徒に伝えようとしている。それが文化として定着することが理想であり、槻の木高校の家庭学習もそうであって欲しいなと思う。

加治佐： 山本先生から具体的な方策を示してもらったが、もう精神論ではダメだと思う。モデルを教員が提示することで、教員自身も成長できる。丁寧にやるのはいいが、生きる力を失わない、依存心を植えつけないようにして欲しい。今後も期待している。

壺谷： 今まで4年いさせてもらったが、初め予想していた以上に飛躍したことに、教員の力が伺える。来年こそ高槻市No.1になってもらえたらと思う。槻の木の良いところは規範意識の確立、良いところしか地域から聞かないので、これからも続けて頑張りたい。

米津： 校内の教員の努力が分かって良かった。高槻の公立中学は地元の学校を大切に

たいと考えている。校長として槻の木を推せる学校でいて欲しいと思う。高槻の18中学のうち、他の17中学には、まだまだ努力が届いていないと思う。今後この努力を伝えるために協力していきたい。

吹田： 子供は、槻の木高校は受験に対する授業が弱いと言っていた。現役での合格を目指す、進路実現という目標をさらに努力してほしいと思う。

5. まとめにかえて

校長： 本日は忙しい中、様々なご提言ありがとうございました。

今までに、頂いた意見をどのように生かすか考え、行動に移すことで本校の教育活動が進んできたと思っています。

これからも教職員一同、生徒のために尽力していきたいと思っていますので、ご協力宜しくお願いいたします。